

札幌市障がい福祉施策に関するアンケート回答

氏 名	小野正美	記入日	3月15日
所属政党	民主党	選挙区	手稲区

- Q 1 A① 一人の人間として地域生活は当然のこと。
- Q 2 A①
- Q 3 A① 高齢者の介護保険と異なる。所得保障が無い中で応益はおかしい。応能負担とすべき。
- Q 4 A① そのためには、自立支援給付事業と同じように事業量の実績に応じた財源措置を、国が行うべきだ。
- Q 5 A① 当事者の視点、意見を反映すべきだ。(かつて、手稲駅周辺整備のワークショップで、ハートビル法適用の西友・自由通路の点字ブロックの設置の仕方がおかしいという話を視力障害者から聞いて、なるほどと思ったことがある。)
- Q 6 A①
- Q 7 A① 障がい者協働事業や元気ショップを拡充。市職員への雇用も拡大すべき。さらに、雇用率を考慮した企業への発注方法なども検討・促進すべき。
- Q 8 A① コロボックルの活動などから高次脳機能障害を知りました。4月には市立札幌病院の医局研修会でも講義が行われる。行政や関係機関・市民にもっともっと理解を広め、そうした活動への支援をしなければならない。
- Q 9 A①

Q10 国の施策がめまぐるしく変わり、混乱と苦勞もあるが、「施設から地域生活」「自立と就勞」を基本的な流れとして、制度の充実をめざしたい。

知的障がいの私の一人娘も、3月から自宅を出てグループホームで生活している。親の心配に反して、楽しく、毎日を過ごしているようです。一人の人間として、親からはなれ、自立した生活ができ、働く喜び、仲間と過ごす喜び、楽しい日々を過ごし、人生を謳歌できるような社会を作りたいですね。

以 上